

平成19年8月13日

神戸市長 矢田 立郎 様

神戸市立中央市民病院整備運営事業審査委員会  
委員長 武田 裕

神戸市立中央市民病院整備運営事業の応募者提案に関する審査結果について（答申）

神戸市立中央市民病院整備運営事業審査委員会において選定された応募者について下記のとおり答申します。

記

（選定された応募者）

応募グループ名	神戸製鋼・伊藤忠商事グループ
代表法人	株式会社 神戸製鋼所
構成員	伊藤忠商事 株式会社 株式会社 日建設計

審査結果の詳細は、別添「神戸市立中央市民病院整備運営事業審査講評」に示します。

別 添

## 神戸市立中央市民病院整備運営事業

### 審査講評

平成19年8月13日

神戸市立中央市民病院整備運営事業審査委員会

## 1 審査講評に当たって

神戸市立中央市民病院整備運営事業（以下「本事業」という。）は、神戸市（以下「市」という。）の基幹病院として、より高度な医療を提供していくとともに、多様化する患者ニーズを的確に捉え、患者の視点にたった病院の整備、運営を行うことが求められている事業である。特に、本事業を実施する事業者には、病院施設整備、維持管理、運営に係る幅広い専門的な知識や技術、ノウハウが求められる。

このため市は、PFI法に基づく整備を行うこととし、価格及び提案内容等に基づいて落札者を決定する総合評価一般競争入札方式による審査を行った。

また、幅広い専門的見地からの意見を参考とするために、学識経験者等により構成される「神戸市立中央市民病院整備運営事業審査委員会（平成 18 年 7 月 25 日設置）」（以下「本委員会」という。）を設置した。

本委員会は、平成 18 年 7 月 25 日に第 1 回会議を開催以降、合計 6 回の会議を開催し、落札者決定基準の策定や応募者提案の審査を行ってきた。

本委員会における審査の経過及び選定された応募者の提案内容について、以下のとおり講評するものとする。

## 2 審査結果

本委員会において、予め公表している落札者決定基準に基づき、専門的見地から中立的かつ客観的に提案内容の評価を行った結果、本事業を実施する事業者として以下のグループを選定した。

応募グループ名	神戸製鋼・伊藤忠商事グループ
代表法人	株式会社 神戸製鋼所
構成員	伊藤忠商事 株式会社 株式会社 日建設計

## 3 総評

本事業提案においては、事業者の経営・技術的ノウハウを積極的に活用しつつ、市と協働で、時代のニーズにあった最適な患者サービスを提供することとともに、施設整備から維持管理、運営までを含めた事業全体の効率化を図りながら、質の高い病院サービスを提供していくことが求められた。また、本事業が、病院という特に成長と変化の著しい施設を対象とした PFI 事業であることから、市民のニーズに応じたトップレベルのサービスを継続的に提供していくための創意工夫と継続的な改善の仕組みが必要とされた。

このように、本事業は非常に高度な技術力、経営力、マネジメント力が必要となる事業であり、また 30 年間という長期間の事業であることから、事業者に対しては大変難しい提案を

求めることとなった。

また、応募者提案の評価にあたっては、要求水準の達成を前提とし、要求水準を上回る具体的な提案が認められた場合にのみ加点する方式を採用した。今回、応募者は1グループのみとなったが、応募者の提案には随所に工夫が見られ、本事業に対する応募者の熱意と積極性が感じられる内容であり、これまで応募者が培ってきた経験・知識・技術を本事業に活かして、市民病院の現場に有効に適用させていく優れた提案内容となっており、要求水準を上回る具体的な提案であった。

ここに、改めて応募者の努力に対して敬意を表したい。

しかしながら、今回の提案は限られた期間の中で作成いただいたということもあり、事業の実施にあたり、市及び病院との十分な協議や調整を要する点が見受けられることから、評価とあわせて審査委員会意見を付した。

今後、実際に事業を進めていく上では、この審査委員会意見を十分に踏まえて、本事業における官民協働の理念（Professional、Partnership、Progress＝専門性、協働、発展）に基づき、市及び病院との綿密な協働体制を構築し、本事業がより良いものとなるよう、積極的な取り組みをしていただきたい。

#### 4 審査の経緯

##### (1) 資格審査

平成19年1月15日から19日の間に競争入札参加資格審査書類の受付を行ったところ、以下に示す2グループより資格審査書類の提出を受け、本委員会において入札説明書に記載の応募者が備えるべき参加資格要件を満たしていることを確認し、平成19年1月30日付で応募者に競争入札参加資格審査結果を通知した。

応募グループ名	PPP＝KOMBIグループ	神戸製鋼・伊藤忠商事グループ
代表法人	株式会社 ビケンテクノ	株式会社 神戸製鋼所
構成員	株式会社 伊藤喜三郎建築研究所 大林ファシリティーズ 株式会社 株式会社 きんでん 松下電工 株式会社	伊藤忠商事 株式会社 株式会社 日建設計

なお、PPP＝KOMBIグループについては、平成19年5月30日に入札辞退書が提出された。

##### (2) 提案審査

平成19年5月31日に神戸製鋼・伊藤忠商事グループから入札書類の提出を受け、本委員会において以下のとおり審査を行った。

##### ア 基礎審査

提案内容が要求水準を満たしているかの基本的な確認を行った結果、要求水準を達成

していることを確認した。

イ 審査基準に基づく内容評価（定性評価）

落札者決定基準において予め公表している審査項目ごとに、審査のポイント例等を踏まえて、提案内容の審査を行った。

ウ 入札金額の確認（定量評価）

平成 19 年 8 月 10 日に開札を行い、応募者が提示する入札金額が予定価格を超過していないことを確認した上で、「価格点」を算出した。

エ 総合評価値の算出

応募者が提示する入札金額に基づく定量評価の得点と事業提案書に記載された内容に対する定性評価の得点との加算により総合評価値を算出した。

（ 3 ） 答申

総合評価の結果に基づき、市に対して、本審査講評を付し、審査結果の答申を行う。

5 定性評価の内容

神戸製鋼・伊藤忠商事グループの事業提案書について、審査項目ごとに提案内容を審査した結果を以下に示す。

（ 1 ） 経営・財務に関する項目について

ア 事業理念・方針と適正な事業計画について

- ・本事業の理念を概ね理解したうえ、SPC のミッションを明確化し、協力法人に対しても方針管理を徹底している。また、自治体病院という公的機関を支援する企業として求められる説明責任や社会的責任を果たすため、コンプライアンスの重視、個人情報管理の徹底による SPC の透明性や法令遵守を高める工夫や、環境保全・社会貢献への積極的取り組みなどの提案がなされている。
- ・研修体制の統一化による意識の共有化や、業務間調整・連携の仕組みとして、病院内の苦情・要望の一元管理を行うオペレーションヘルプデスクを運用することや、運営体制に合わせて複数の業務をエリア又は機能毎のチーム体制に再構築すること（マルチタスキング化）など、効率的かつ効果的な運営に関する提案がなされている。
- ・SPC の財務・業務監査の仕組みや構成員、協力法人の経営状況の把握等の観点から具体的な提案が見られるものの、リスクの特定及びその対応方法や、SPC に資金不足が生じた際の対応については、不明確な提案となっている。
- ・以上の点を総合的に判断して、本項目については、一定の具体的な提案がなされて

おりCと評価した。

イ 効果的なシステム構築と成長と変化への対応に向けたマネジメント力について

- ・効果的なマネジメントシステム構築については、複数のマネジメント手法を効果的に活用することや、協力法人スタッフも含めた系統的な教育・研修プログラムを実施することなど、SPC 組織としての一体的な運営を実現するための具体的な提案がなされている。
- ・各運営業務におけるモニタリングに関して第三者的視点が入り入れられておらず、SPC 及び協力法人が自ら行う業務点検・内部監査レベルに留まっている。また、継続的な業務改善プロセス構築に関しては抽象的な内容に留まっている。リスク対応の点では、医療安全（院内感染防止、医療機器の保守管理）や防災・減災等の視点からリスク想定及びその対応策が一定具体化されているものの、緊急時の体制や大規模災害発生時の対応について総論的な内容に留まっている。
- ・成長と変化への対応については、想定される外部環境変化を具体的に抽出・分析した上で、SPC の対応についても一定の提案がなされている。
- ・以上の点を総合的に判断して、本項目については、緊急時の体制や大規模災害発生時の対応についてさらなる検討が必要であるものの、具体的な提案があるとしてCと評価した。

ウ 統括マネジメント業務の実効性について

- ・患者・家族及び病院スタッフをはじめとしたステークホルダー（利害関係者）の満足度を高いレベルで維持することができるように、苦情・クレーム情報の収集（満足度調査等）による顧客ニーズの把握や、対応・改善プロセス（データベース化のうえ一元管理等）の構築、ISO10002 を参考とした業務マニュアルの作成など、民間事業者としてのノウハウを活かした効果的かつ具体的な提案がなされている。また、病院とのコミュニケーションの重要性を認識したうえで、情報の共有化や円滑な連携を図る工夫がなされている。
- ・協力法人を統括する各業務責任者の交代に際して、円滑な業務引継ぎや能力検証の仕組み（病院によるモニタリング）を構築することや、系統だった研修（接遇研修、医療安全研修等）による人材育成及び資質向上等に関して具体的な提案が見られ、協力法人の品質管理の面から、十分な能力及び資質を有した人材の継続的な確保・育成に努めていく姿勢が窺える。
- ・経営会議に対して、経営改善に資する情報（月次損益計算書、DPC 定期分析表等）を分析のうえ、提供すること及び各業務責任者が出席し、病院側のニーズに応じた助言や提言を行うことや、医療リスクマネジメント会社を活用し、院外の医療安全にかかる情報収集及び提供を行うなど病院経営及び病院業務への支援に関する具体的な提案がなされている。
- ・以上の点を総合的に判断して、本項目については、具体的に優れた提案がなされておりBと評価した。

## (2) 施設整備に関する項目について

### ア 病院の全体計画について

- ・施設の全体配置については、病院施設を計画敷地のほぼ中央部に配置し、かつ、駐車場を地下式及び立体式としている提案となっている。このことにより、病院施設の周囲にまとまった広さの屋外災害時活動スペースやオープンスペース等の確保を可能とした提案を行っている。
- ・建物外部動線計画については、ポートライナーの駅やポートアイランド 期及び立体式駐車場からといった複数の歩行者アクセスについて、広いペDESTリアンデッキ（歩行者専用デッキ）によりメインエントランスへ機能的に誘導・集約を図った提案となっている。
- ・自動車のアクセスについても、救急車用、来院者用、サービス用の車両動線を適切かつ明確に分離した計画とするとともに、来院者用の車両動線は、一般来院者用とタクシー、バス用とに分離している。また、これら各車両の乗降部においては、大きな屋根や庇を設けるなどの配慮がなされた提案となっている。
- ・一方、病院内部空間は、各部門間のつながり（空間的連携）等にいくつかの課題がみられ、今後、病院スタッフ等を交えたさらなる検討が必要である。
- ・搬送システムに関しては、今回新たに開発された機械搬送設備を導入するとの提案があった。この機械搬送設備を中心とした搬送システムを実現するためには、関係者間の協議や試作品等による実証を踏まえ、より詳細な仕様等について検証・検討を行う必要がある。
- ・病院施設の内部計画や搬送システムについては、今後の設計業務及び建設業務において課題を解決し、内容を確定していくことが必要であるが、施設の配置計画等に関しては全体的に良く考えられた計画となっており、総合的に判断して、具体的で優れた提案があると考えられBと評価した。

### イ 充実した救急医療と高度で質の高い医療を提供できる病院について

- ・災害（広域災害・大事故・新興再興感染症集団発生）時の医療対応として、病院施設周囲のオープンスペースや立体式駐車場を活用した病院施設外部での対応や、平常時の640床に加え、約300名の患者を受け入れる病院施設内部での増床対応などについては、要求水準を超える内容となっている。
- ・新興再興感染症集団発生時の対応として、病棟の一部を多層的に縦に区画して対応するという、建築的に特徴ある提案がなされている。しかし、実際の運用にあたっては、感染症患者が複数階に分散配置されるため、医療や看護を提供する観点から、今後検証・検討を行い、設計業務等を進めていく必要がある。
- ・充実した救急医療と高度で質の高い医療を提供するための空間としては、外来部門、救急部門、映像医学センター等の平面計画において、患者・スタッフ動線の処理など検討すべき課題がいくつかみられる。
- ・各部門における平面計画上の課題等については、今後の設計業務等を通じ、解決を図り、内容を確定していくことが必要である。災害時等の医療に対応した施設計画

について評価すべき点がみられるものの、総合的に判断して、具体的な提案があると考えられCと評価した。

#### ウ 利用者（患者・家族等）の視点に立った病院について

- ・病棟部門においては、高い個室率の計画や、個室への転換が容易な4床室についての計画など独創的な提案がなされている。しかし、ベッドまわりの空間などについては、患者の生活動作や家族の付き添い等について、病室のレイアウトや平面計画にさらなる配慮が必要であり、21世紀をリードする病棟の治療・療養環境を実現していただくよう、より一層の創意工夫を求めたい。
- ・外来部門においては、携帯端末を利用した待合の考え方などの提案がなされている。しかし、運用の観点から、携帯端末の実用性・実効性などとともに、待合のためのスペースの広さ、形状等について、検証・検討を経て、設計業務等に反映していく必要がある。
- ・1階のラウンジまわりでは、災害時の救急医療や院内コンサートなどのイベントに活用できるように、隣接するエントランスホールや講堂を一体として大きなスペースを確保するなど、様々な状況に対して柔軟に対応できる提案がみられる。
- ・前述の病棟部門や外来部門における留意点や課題等については、今後の検証・検討や病院スタッフとの協議等を踏まえ、設計業務等に反映していく必要があるが、総合的に判断して、具体的な提案がなされていると考えられCと評価した。

#### エ 成長と変化に対応できる病院について

- ・病院施設周囲に十分なオープンスペースを確保した点は一定の評価がされる。加えて、施設内部各所に予備スペースが確保されており、優れた提案と考えられる。
- ・スケルトンインフィル（構造材と仕上材の分離）、柱の少ないロングスパン構造、二重床及び外部化した設備シャフト等は、病院施設の将来的な改修や維持管理に対して有効な手段であると考えられる。さらに、外来部門、手術部門、映像医学センター等の床について、相当の余裕をもった荷重を設定している。これらについては、病院施設の将来的な成長と変化に柔軟に対応できる提案と考えられる。
- ・病室や診察室等のモデルルームについては、ホームページで公開するほか、内覧会を開催するなど、市民の関心と理解を深めるような提案を行っている。
- ・施設のライフサイクルコスト低減に対しては、耐久性、防汚性の高い外装材、内装材の採用やCAFMの導入などの提案がみられる。
- ・病院施設周囲のオープンスペースでの増築展開の具体性などについては、今後詳細な検討が必要と考えられるものの、施設の設計、建設や維持管理を通じた様々な面で、病院施設の成長と変化に対応できる施設となることが期待できる提案となっており、総合的に判断して、具体的に優れた提案があると考えられBと評価した。

#### オ 安全で安心な病院について

- ・地震対策として、建築的には病院施設を免震構造とし、兵庫県南部地震や東南海・南海地震を想定したシミュレーションを行い、その免震効果を検証し、建物の安全

性を確保しようとする提案となっている。

- ・ 不同沈下や液状化に対する安全性を確保するため、埋め立て地盤に適した耐震性の高い基礎構造とするなどの提案がみられる。
- ・ 災害時のライフライン途絶に対して、電気・ガス・油（備蓄）によるエネルギーの供給を相互に補完するシステムを構築している。また、上水や中水の引き込みに加え、雨水等の利用や厨房排水の再利用などの自己水源の確保に努めており、医療機能を維持するための優れた提案がみられる。
- ・ 安全で安心な病院づくりのため、災害対策について、施設の安全性や医療機能の継続性の確保に努めたよくまとまった提案となっており、総合的に判断して、具体的に優れた提案と考えられ B と評価した。

#### カ 環境に配慮した病院について

- ・ CASBEE において、最高とされる「S」ランクの評価をめざすものとなっており、環境にやさしい病院の実現のための優れた提案と評価できる。
- ・ 電気と熱を同時に供給することができるコージェネレーションシステム等の高効率機器、エネルギー利用の平準化に寄与する夜間電力を利用した氷蓄熱空調システムの採用などの省エネルギー対策についても、優れた提案と評価できる。
- ・ 雨水等の利用や地下の空気層を活用した空調といった自然資源の有効利用を図ろうとする提案となっている。
- ・ 事前にビル風のシミュレーションを行い設計内容に反映させることや、電波障害調査とその適切な対策を行うことなど、周辺環境への配慮についての詳細な提案がみられる。
- ・ 今後、環境配慮への取り組みは、より一層の充実が求められるが、本提案においては現時点で考えられるものの中でもかなり充実した内容となっていると考えられ、総合的に判断して、具体的に優れた提案と考えられ B と評価した。

### (3) 管理運営に関する項目について

#### ア エビデンスに基づく業務品質の確保について

- ・ 医療情報システムや CAFM などに蓄積されたデータを活用し、各業務において PDCA サイクルを確立するという提案がなされており、全体として業務品質の確保が期待できる。
- ・ 検体検査業務・食事の提供業務で ISO の認証取得を行うとともに、各業務において CDC（米国疾病管理予防センター）ガイドラインに準拠した業務を実施するなど、専門的知識に基づく業務品質の確保に関する具体的な提案がなされている。
- ・ 安全な医療の貢献について、物流管理運営業務における患者・物品・実施者の照合システムや医療情報システムにおけるインシデントレポートのデータを活用した e-Learning システムの導入など、具体的な提案がなされている。
- ・ 総合的に判断して、エビデンスをやや広義に解釈している部分は見受けられるものの、具体的に優れた提案がなされており B と評価した。

#### イ 安全で安心な業務実施体制について

- ・初任研修や継続的研修に加え、専門技能別研修や公的資格取得の機会を提供するなど、教育・研修プログラムにおいて、優秀な人材確保のための具体的な提案がなされている。
- ・物流管理運営業務におけるジャストインタイム方式の採用や、複数の運営業務をエリア毎のチーム体制に再編することで各業務間の隙間を埋め、「ムリ・ムダ・ムラ」をなくす工夫をするなど、民間事業者がこれまで培ってきた品質管理の考え方を適用した具体的な提案がなされており、効率的な業務の実施が期待できる。
- ・緊急時・災害時の適切な対応については、やや具体性に欠けるものの、マニュアル作成や病院と連携した訓練など緊急時・災害時の準備に関する提案がなされている。
- ・総合的に判断して、効率的かつ安全で安心な業務実施体制を確保する具体的に優れた提案がなされておりBと評価した。

#### ウ 協働による病院運営への貢献について

- ・業務設計段階における病院スタッフへのヒアリングの実施や、運営業務開始後の各種検討委員会への参加などの具体的な提案がなされており、協働で病院運営に取り組もうとする姿勢を示した提案となっている。
- ・個別原価管理や検体検査時間の測定管理など、医療情報システムを効果的に活用した、病院の経営や業務改善につながる具体的な提案がなされている。
- ・マルチタスキング化や各運営業務間の連携といった事業者の効率的な業務の実施が期待できる提案がなされているが、病院スタッフが実施する業務との関係や病院運営に与える影響など、協働による病院運営といった観点では、より具体的な検討が必要である。
- ・総合的に判断して、病院との協働のあり方について、さらなる検討が必要であるものの、具体的な提案がなされておりCと評価した。

#### エ 顧客志向による効果的な運営について

- ・顧客の声をデータベース化し情報を共有化するなど、顧客ニーズを基本にした考え方は評価できる。
- ・食事の提供業務におけるイベント食の実施や洗濯業務における多様な病衣の提供、電話交換業務における電話利用者のデータベース化を図るCTIシステムの導入など、多岐にわたって顧客サービス向上を目指した具体的な提案がなされている。
- ・市民健康ライブラリーからの医療情報の発信や病室における診療情報の閲覧、インターネット・携帯電話からの外来診察状況の閲覧など、医療情報システムを活用し患者・市民へのサービスを向上させようという具体的な提案がなされている。
- ・総合的に判断して、病院におけるサービスを向上させる具体的に優れた提案がなされていると考えられBと評価した。

#### オ 成長と変化への柔軟な対応について

- ・柔軟に対応していこうとする前向きな姿勢は評価できる。

- ・医療や病院の成長と変化については予測が難しく、事業者の提案として一定の限界があることは理解できるが、これらに対応するための体制や仕組みの構築などの具体的な提案が不足しておりDと評価した。

## 6 審査委員会意見

「3 総評」において述べたように、応募者提案は優れた内容となっているが、今後、市及び病院との十分な協議や調整を要する点が見受けられることから、以下の意見を付する。

### (1) 経営・財務に関する項目について

- ・財務面での安定性やリスクの特定及びその対応については、事業内容や事業規模に鑑みた場合、やや不十分と思量されることから、代表法人及び構成員においては、SPCが業務を実施する上で必要となるバックアップを行うとともに、事業実施に際して発生する各種リスクや緊急時の対応についてより積極的に取り組むこと。
- ・オペレーションヘルプデスクの運用やマルチタスキング化の実施に際しては、円滑かつ効果的な運用ができるよう、病院スタッフとの十分な協議を行い、実効性を担保すること。
- ・各運営業務のモニタリングに第三者の視点を採り入れるなど、より効果的かつ効率的な業務改善につながる仕組みの構築を行うこと。
- ・本事業においては、SPCは事業期間を通じて、病院スタッフとの良好なコミュニケーションの確保に努めることが求められている。特に開設準備期間においては、施設設計や業務計画書の検討にあたり、病院スタッフの意見を十分に反映できるよう必要な協議及び調整を行うこと。
- ・病院経営の支援に関しては、適切な情報提供及び分析が可能となるよう、病院スタッフの意見を十分に反映した上で、医療情報システムの構築を進めていくこと。

### (2) 施設整備に関する項目について

- ・提案で示されたスケジュールでは、開院までの期間を基本設計・実施設計・施工・開院準備の時期として配分している。しかし、提案されている基本設計の期間では後述する様々な施設整備上の課題を十分に検討することが困難であると考えられる。今後、事業者は市や病院と十分に協議をしつつ開院までのスケジュールを再度検討すること。
- ・「5 定性評価の内容」において、各部門間のつながり（空間的連携）等や平面計画などにいくつかの課題がみられることを述べた。今後、事業者は、市、病院と十分協議しつつ設計業務及び建設業務を進め、これらの課題を解消するとともに、必要に応じて配置計画などについても検証・検討を行い、よりよい病院施設としていくこと。
- ・充実した救急医療と高度で質の高い医療を提供できる病院づくりにあたっては、以下の課題を解決するため、市及び病院と緊密な連携を図り十分なヒアリングを行い、

協議、提案を繰り返しながら今後の設計業務等を進めていくこと。

以下の点について十分な検証・検討を行うこと。

\* 外来部門における携帯端末を利用した患者の呼び込み（待ち方）と待合の空間構成との考え方

\* 救急部門における患者の入り方、診察・治療空間のつながり、待合空間のあり方など

\* 集中治療部門におけるベッド周りのケアスペース等のあり方や、各諸室の配置計画

映像医学センター等においては、スタッフの作業空間のあり方に特徴的な提案がなされている。その意図するところは一定程度理解できるものの、実際の運用にあたっては、円滑に検査・診療を行うことやスタッフの効率的な配置等に対して問題点があると考えられ、今後検証・検討を行っていくこと。

病棟部門においては、病室のベッドまわり空間の必要寸法の確保、各室付きトイレや洗面台の使い勝手、患者や家族の生活動作に配慮したしつらえ、各病室における家族等の付き添い方法などに加えて、スタッフステーションやスタッフコーナーといった看護関係諸室のあり方と看護師の看護方式や病棟の運営方式等について再度確認しながら、より詳細な検討を行うこと。

質の高い医療が提供されるために、病院機能の充実はもちろんのことであるが、スタッフのエネルギーが再生産されるような場（休憩や短時間でも個々が学習できるスペース）のさらなる充実が望まれる。したがって、要求水準書において「スタッフの休憩に使用するための室」としているスタッフ室の広さや数、アメニティ等についての配慮を行うこと。

- ・「5 定性評価の内容」において述べたが、搬送システムについては、関係者間の協議や試作品等による実証、詳細な仕様等の検証・検討を行い、正確かつ迅速で信頼性の高いシステムを構築すること。
- ・これまで、病院施設の成長と変化に対して、将来の増築のために拡張スペースを用意しておく計画はいくつもあったが、想定通りに拡張がなされているという事例はまれである。本提案においても、施設周囲にまとまったオープンスペースが用意されているが、その有効性、実効性の確保については十分検討し、今後の設計業務等を進めていくこと。
- ・駅から病院エントランスまでのアクセシビリティに関して一定の評価をしているが、敷地外（本事業の範囲外）も含めて今後より積極的な提案を行い、より良好なアクセスとなるように市と協力して設計業務等を進めていくこと。
- ・病院施設の東側立面をより正面性のある豊かなデザインとし、アクセスのイメージを明確にしていくこと。また、提案では病院の正面入口前にタクシーの待機場所が設定されているが、施設の正面性を演出するために別の場所に設けるなどの検討を行うこと。
- ・メインエントランスホール、ホスピタルモール、待合ロビー等の断面計画を患者・家族の癒しと安らぎの環境づくりといった視点から十分に検討するとともに、わかりやすい視界や視認性、自然光、照明計画など総合的に優れた空間デザインとして

病院全体を充実させること。特に、待合スペースに自然採光を確保することや天井高を十分にとることなどへの配慮を行うこと。

- ・転倒・転落については、その多くがベッドまわりでの動作で発生している。床材の滑りの問題だけでなく、例えば床材のクッション性やベッド自体の選定など、より具体的な検討を今後行っていくこと。
- ・提案では院内保育所が広い通りに面しており、セキュリティ上懸念のあるところである。今後の検証・検討・協議を踏まえ、適切な位置を決定すること。
- ・外部建具計画においては、環境面への配慮から全面的にペアガラスを採用すること。
- ・緑化については、病棟、院内保育所の屋上緑化や植栽計画の充実を図るなど、より一層の環境配慮を行うこと。
- ・環境問題については、将来、より厳しい取り組みや省エネルギー対策が求められるようになることが考えられるため、業務期間中の設計、建設、維持管理において、より一層の工夫を行うこと。

### (3) 管理運営に関する項目について

- ・業務品質を確保するうえでの優秀な人材の継続的な確保と教育については、人材不足などの不確定な事態が生じた場合の対応も含め、より具体的に検討を進めること。
- ・医療情報システムの構築にあたっては、システムを利用する病院スタッフや患者の視点に十分留意すること。またシステムインテグレーションに十分な知識・経験・技術を有する人材を投入すること
- ・マルチベンダ方式の大規模な医療情報システムの導入や診療のペーパーレス化への移行などを円滑かつ速やかに行うために、より綿密な移行計画を作成し、十分なりハールが行えるよう支援すること。
- ・緊急時・災害時の対応マニュアル作成に際しては、震災の経験等を踏まえ、各業務ごとに詳細な想定を行い、発生時にどのような対応を行うのかについて、より具体的な検討をすること。
- ・病院スタッフが実施する業務と事業者が実施する業務が、円滑に連携できるように、今後病院と十分な協議を行うとともに、提案内容を確実に履行するために必要な業務実施体制を構築すること。
- ・顧客サービス業務の実施にあたっては、提供するサービス内容の妥当性について、病院と十分に協議を行うこと。また、患者が望むサービスとの間に差異が生じた際の改善対応など、常に顧客ニーズを保証するような仕組みについて、さらに検討すること。
- ・患者のプライバシー保護には特に配慮し、プライバシー保護に関して十分な体制を構築するとともに、スタッフの教育を充実させること。
- ・成長と変化への柔軟な対応が行えるように、その体制や仕組みなどを具体的に構築していくこと。

## 7 評価値

### (1) 定性評価

各審査項目について、要求水準以上の優れた提案内容に対する加点評価を行い、以下の方法により審査項目ごとの評価ランクに応じて「審査点」として得点化した。

#### 【評価ランクに基づく得点計算方法】

評価ランク		得点
A	具体的に極めて優れた提案がある	当該項目の配点 × 100%
B	具体的に優れた提案がある	当該項目の配点 × 60%
C	具体的に提案がある	当該項目の配点 × 20%
D	特に提案がない	当該項目の配点 × 0%

No	審査項目	配点	評価	得点
経営・財務に関する項目		100		40
1	事業理念・方針と適正な事業計画	20	C	4
2	効果的なシステム構築と成長と変化への対応に向けたマネジメント力	30	C	6
3	統括マネジメント業務の実効性	50	B	30
施設整備に関する項目		250		120
4	病院の全体計画	70	B	42
5	充実した救急医療と高度で質の高い医療を提供できる病院	45	C	9
6	利用者（患者・家族等）の視点に立った病院	30	C	6
7	成長と変化に対応できる病院	60	B	36
8	安全で安心な病院	30	B	18
9	環境に配慮した病院	15	B	9
管理運営に関する項目		250		114
10	エビデンスに基づく業務品質の確保	60	B	36
11	安全で安心な業務実施体制	60	B	36
12	協働による病院運営への貢献	60	C	12
13	顧客志向による効果的な運営	50	B	30
14	成長と変化への柔軟な対応	20	D	0
合計		600		274

( 2 ) 定量評価

応募者が提示する入札金額について、以下の算定式により得点化を行った結果、神戸製鋼・伊藤忠商事グループの得点は400点となった。

〔算定式〕

【 価格点 = ( 最も低い入札金額 / 当該応募者の提示する入札金額 ) × 400点 】

入札金額：102,378,150,000円(消費税等を含む)

〔 予定価格：102,380,000,000円(消費税等を含む) 〕

( 3 ) 総合評価

以上より、総合評価の結果は以下のとおりとなった。

総合評価値 = 「審査点」 + 「価格点」 = 274 + 400 = 674点
--

## 【用語解説】

( S P C : Special Purpose Company )

本事業に参加する民間事業者が出資して設置する、当該 P F I 事業を遂行するための特別目的会社のこと。

( コンプライアンス )

法令遵守。特に、企業活動において社会規範に反することなく、公正・公平に業務遂行すること。

( モニタリング )

民間事業者から提供されるサービスの水準が、要求した性能を達成しているかどうかを監視・評価すること。

( I S O 1 0 0 0 2 )

「 I S O 」とは、国際標準化機構で策定された国際標準規格のことであり、その中で「 1 0 0 0 2 」は苦情対応マネジメントシステムのこと。

( D P C : Diagnosis Procedure Combination )

従来診療行為ごとに計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者様の医療資源を最も投入した病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分(投薬、注射、処置、入院料等)と出来高評価部分(手術、麻酔、リハビリ、指導料等)を組み合わせる新しい請求方式のこと。

( ライフサイクルコスト )

建築物の計画、設計から建設、維持・管理、解体撤去、廃棄にいたる各段階の費用の総計のこと。

( C A F M : Computer Aided Facility Management )

コンピューターを活用し、施設運営上必要となる図面情報、技術情報、台帳・帳票類等の情報を一元的に管理する施設管理支援システム。

( C A S B E E : Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency )

建築物総合環境性能評価システム。建築主自らが、環境配慮への取り組みを総合的に評価し、建築物のランク付け(S、A、B+、B-、Cの5ランク)を行う仕組み。評価は建築物の環境品質・性能(Q)と外部環境負荷(L)に分類され、算出された環境性能効率(Q/L)を用いることにより、評価結果をより簡潔・明確に示すことができる。国土交通省の支援のもとに産学官共同で研究・開発されており、その普及が促進されている。

( P D C A サイクル )

計画(Plan) 実行(Do) 検証(Check) 改善(Action)という工程を繰り返すことで、継続的に業務改善を行っていくしくみ。

( インシデントレポート )

患者に影響を及ぼすことはなかったが、医療現場においてヒヤリとしたりハットしたりする事実の報告書。

( e - ラーニングシステム )

インターネットやイントラネットを活用し、双方向で教育を行うオンラインシステム。

(エビデンス)

科学的根拠。

(ジャストインタイム方式)

病院で使用する診療材料などを必要な時に必要な分だけ入手することによって、院内管理するものを出来るだけ少なくすること。

(アクセシビリティ)

ある地点や施設への到達容易性のこと。

(マルチベンダ方式)

一つの企業の製品だけでシステムを構築するのではなく、様々な企業の製品からそれぞれに優れたものを選んで組み合わせ、システムを構築すること。

【審査委員会開催概要】

会議	開催日	議事事項
第1回	平成18年7月25日	・審査委員会の運営について ・実施方針(案)について 等
第2回	平成18年9月29日	・落札者決定基準(案)について 等
第3回	平成18年10月29日	・落札者決定基準(案)について 等
第4回	平成19年1月29日	・参加資格に関する審査 等
第5回	平成19年7月6~8日	・提案内容評価 ・応募者への確認事項について 等
第6回	平成19年7月27日	・プレゼンテーション及びヒアリング ・審査総括 ・審査講評(案)について 等

【審査委員会の構成及び委員】

<p>神戸市立中央市民病院整備運営事業審査委員会</p> <p>委員長 武田 裕 (大阪大学大学院医学系研究科教授) 1 (前委員長: 西野 文雄 (政策研究大学院大学学事顧問))</p> <p>岡部 憲明 (神戸芸術工科大学デザイン教育研究センター教授)</p> <p>笥 淳夫 (国立保健医療科学院施設科学部長)</p> <p>坂本 憲枝 (消費生活アドバイザー)</p> <p>近田 敬子 (園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科長)</p> <p>長尾 秀樹 (日本政策投資銀行新産業創造部長)</p> <p>菊池 晴彦 (神戸市立医療センター中央市民病院長)</p> <p>桜井 誠一 (神戸市保健福祉局長)(前任: 中村 三郎) 2</p> <p>1: 前委員長の西野 文雄氏逝去(平成19年5月6日)に伴い、第5回審査委員会から委員長に就任。</p> <p>2: 前委員の中村 三郎氏の異動に伴い、第5回審査委員会から委員に就任。</p>
---